

1 取組名

漆工技術後継者育成事業

2 実施団体

団体名: 八幡平市安代漆工技術研究センター

住所: 〒028-7533 岩手県八幡平市叭田 70

3 取組内容

(1) 概要

希少性の高い漆工技能者を30年以上にわたり育成し、安比塗の伝統技能の継承と漆器産業の後継者を育成する取組。

(2) 詳細

安代漆工技術研究センターの研修期間は、基礎課程2年、専攻課程1年とし、基礎課程では丸物などを使用した塗や漆調合、各種下地、産地別の特徴的な塗、道具製作等漆器製作にかかわる基本を指導する。その他蒔絵、乾漆造形、木地製作、漆精製、立体造形など研修分野は多岐にわたる。漆器製作技術を正確に習得するため少人数での指導を行う。研修後、独自の生産活動に繋げるため漆器工房で販売している商品を教材とし、実践的な指導を行う。

専攻課程は基礎課程修了生または同等の技術を保有したものを対象とし、量産技術、商品デザイン、接客等の実技を指導する。職人は接客が苦手と言われるが物産展等へ参加し商品説明や販売体験も行う。

海外からの研修生も受け入れており、台湾、ドイツ、オランダからの受け入れ実績もある。

(3) 取組のアピールポイント・特徴・効果

研修後に独自での活動を促すため、販売できる教材を使用して実践的な指導を行っており、このことにより多数の修了生が工房を開設し、漆器産業全体に貢献している。

職員の指導のほか外部講師も招き新技術の導入や指導も行っている。これまで67名の研修生を輩出し全国で活躍している。漆指導機関からの評価も高く、大学等で漆を専攻した学生の研修も受け入れている。



1 取組名

Made in やまがた！高校生が作る3Dプリンター
「次代を担う子どもたちに3Dプリンターを贈ろう！」
教育用3Dプリンター導入プロジェクト

2 実施団体

団体名：やまがた メイカーズ ネットワーク
住 所：〒990-0834 山形県清住町3-6-14 涵養塾内
やまがた メイカーズ ネットワーク事務局

3 取組内容

(1) 概要

山形県内の小・中・高等学校に県内企業産の部材をふんだんに使用した手づくりの3Dプリンターを導入し、教育活動に活用する取組。

(2) 詳細

各学校に導入するため、山形県内企業産の部材をふんだんに使用した教育用3Dプリンターを開発。小学校・中学校・特別支援学校・高校・大学の他、教育関連施設合わせて100台導入が目標※。また、子ども向け3Dプリンター教室やプログラミング教室、ロボット教室、3Dプリンターで作る電動義手教室、出前授業、各種イベントの展示などを精力的に行う。3Dプリンターを導入した特別支援学校と工業高校の連携や、小学校と近隣高校との連携を行う。特別支援学校の教育を支援するために学校と企業との連携も始める。

※ 平成31年1月24日に目標であった100台導入を達成した。

(3) 取組のアピールポイント・特徴・効果

- ①子ども向け各種教室の実施により、子どもたちの科学及びものづくりへの関心・意欲・態度などを培うことができた。
- ②半身大の大型3Dプリンターの製作など、会員の企画・提案型の活動を活かし、創造的なものづくりができています。
- ③各種イベントでの3Dプリンター展示など、地域貢献のみならず、東日本大震災支援、バングラデシュへの国際貢献も実現している。



1 取組名

やちパンプロジェクト

2 実施団体

団体名：八千代商工会議所

住 所：〒276-0033 千葉県八千代市八千代台南 1-11-6

3 取組内容

(1) 概要

八千代商工会議所及び八千代市が支援をし、高校生、同市内パン事業者が一体となって地元産品を使ったオリジナル商品を開発・販売する産学官連携プロジェクトの取組。

(2) 詳細

ハウス食品グループ本社(株)の担当者から商品開発及びマーケティングについて、「ラ・セン・デ・レーヴベル」の店長からパンづくりの基本についての授業を実施したほか、八千代市商工課及び八千代商工会議所職員から、「八千代市の概要や地域資源、歴史、文化等について」の説明を行った。それらを参考にして、生徒たちが八千代市内のパン事業者と一緒に、「八千代らしい」13種類のパンを製作し販売を実現した。パンはほぼ完売され地元住民に好評を博した。

(3) 取組のアピールポイント・特徴・効果

- ①平成 29 年度の第 1 回目は、約 2 週間の販売期間中に、13 種類合計約 6,500 個のやちパンが販売され、用意されたパンはほぼ完売状態となる。
- ②当プロジェクトは読売新聞、朝日新聞、千葉日報、東京新聞、地域新聞及び日商会議所ニュースなどに掲載され、市内外から注目を集めた。
- ③当プロジェクトを機にパン職人同士の交流が生まれ、情報交換等を通じ技能の振興に寄与した。
- ④第 2 回目（平成 30 年 12 月実施）は、大型店（イオン、ヨークマートのパン事業者）も参加し、個店と大型店の垣根を超えた取組を展開。



1 取組名

「大田の工匠 技術・技能継承」表彰事業

2 実施団体

団体名：公益財団法人 大田区産業振興協会

住 所：〒144-0035 東京都大田区南蒲田 1-20-20 大田区産業プラザ (PiO) 3階

3 取組内容

(1) 概要

大田区内の製造業を営む中小企業において、実務指導者（師匠）と若手技術者（弟子）による、各企業内または企業間で実施されている技術・技能の継承について優れた取組を表彰する制度。

(2) 詳細

平成 26 年度に、大田区内のものづくり企業等の取引構造の変化、ものづくりを取り巻く産業の進展、少子高齢化社会等の社会ニーズに対するものづくりの対応など、区内ものづくり産業の現況を把握するために実施した「大田区ものづくり産業等実態調査※」で、技術・技能の継承に課題のあることが分かった。

当該調査結果を踏まえ、継承に積極的な企業の取組みを表彰することにより、「技術・技能継承」及び「若手人材の確保」という区内企業の課題解決に寄与し、ものづくりのまちの活性化を図る本表彰制度を始めた。

※ 技能人材の退職や高齢化等により技能の継承が困難となっていること、及び技能の継承ができないことが廃業や事業縮小の要因になっていると推測されることを踏まえ、各社組織内の技能継承及び若手人材の確保の取組を促進するための支援に加えて、地域単位あるいは事業者グループによる技能継承及び若手人材の確保の実施及びその支援の必要性等が指摘されている。

(3) 取組のアピールポイント・特徴・効果

工業集積地である大田区ならではの強み・特徴（仲間まわし・横請け）を活かした、他の自治体にはない先駆的な表彰制度であり、ものづくりのまちとしての認知度の更なる向上を目指している。



1 取組名

事業所内技能訓練校による人材育成と技能伝承

2 実施団体

団体名：株式会社イスルギ

住 所：〒921-8027 石川県金沢市神田 1-31-1

3 取組内容

(1) 概要

企業内技能訓練校において技能者を育成し、古式左官工法の技能・技術の後継者を育成する取組。石川県における左官技能者養成機関として確固たる地位を確立。

(2) 詳細

働きながら左官の技能が学べる、独自の技能訓練校として、新入社員に対して、技能検定等の資格取得を目標に、基本技術と専門学科、社会人としての一般教養等を指導し、また、技能競技大会に出場することで全国レベルの技を肌で感じるとともに、大会へ向けた訓練によって技能向上を図っている。

中堅社員に対しては、フォローアップ研修を実施、技術水準の高度化と技能伝承に努める。また、「国宝 姫路城」の修復工事を施工した日本トップクラスの古式左官工法の技能・技術の技能者の育成に成功している。

(3) 取組のアピールポイント・特徴・効果

- ①本取組によって高い技能を身に着けさせることにより、社員の高い定着率を誇っている。
- ②「金沢城」の復元工事や、金沢駅「もてなしドーム」の施工など、地域の顔となるすぐれた建築物の施工を行い、左官技能を通じて地域に貢献している。



1 取組名

郷土の偉人 豊田佐吉翁「報恩・創造」思想の継承

2 実施団体

団体名：湖西少年少女発明クラブ

住 所：〒431-0431 静岡県湖西市鷺津 1293-4

3 取組内容

(1) 概要

小学校の3年生から6年生を対象に、ものづくり体験教室などものづくりの楽しさ伝える取組。「トヨタ式木製人力織機の復元」、「3Dプリンターを使ったものづくり体験」など、40年以上継続して地域に根ざした技能から最新の機器を使用したものまで、様々な取組を実施。

(2) 詳細

基本的に月2回、各学年のテーマに基づき作品を製作している。また、市内の小中学生を対象に湖西発明くふう展を開催し、優秀作品は豊田佐吉翁顕彰祭にて表彰を行うとともに、県大会及び全国大会への出品も行っている。

平成28年度には豊田佐吉翁生誕150年及びクラブ創設40周年記念として、豊田市内の設計士、製造会社及びクラブOB協力の下、「豊田式木製人力織機」の復元事業を行った。

また、平成29年度には湖西地域職業訓練センター及び地元企業の協力を得て、高学年のカリキュラムにITロボットや3Dプリンターに関する講座を設けるなど、新たな取組を進めている。

(3) 取組のアピールポイント・特徴・効果

- ①日本の将来を担う子どもたちに、ものづくりへの興味を持たせるものづくり体験を40年以上継続しており、地域に大きく貢献している。
- ②「トヨタ式木製人力織機の復元」「3Dプリンターを使ったものづくり体験」など、地域の技能の紹介から新たな技能分野の紹介まで幅広く取り扱うことによる創造性や新規性に加え、地元企業とのつながり等の地域性も有している。
- ③発明クラブに入会する子どもが増加傾向に有り、ものづくりに興味を持つ子どもが増えている。



1 取組名

超小型モビリティを用いたプロジェクト型学習による自動車産業教育

2 実施団体

団体名：愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科

住 所：〒464-0808 愛知県名古屋市千種区星が丘山手 107

3 取組内容

(1) 概要

自動車産業集積地の愛知県において、工業高校専攻科生徒が、地域企業の支援を得て自動車開発の一連の業務を経験することにより、地場産業の後継者育成を行う取組。

(2) 詳細

2016年から2017年度の取り組みでは、2050年の自動車社会を想像し、近い将来に実用化されるであろう自動車の形をTMS（東京モーターショー）2017にて『コプラス』として発表した。その後、2018年度入学の生徒たちが活動を引継ぎ、実用化に向けて、先進的なシステムを有した公道走行が可能な実証実験モデル TRE-Ⅲの開発を行った。今後、実用化（市販化）の提案を外部に向けて行う予定である。

また TRE-Ⅲにて得た技術や知識を活用し、将来的に必要なとらえてくるであろう「月面ローバー」と「超小型モビリティ」を複合したコンセプトモデル TRE-Ⅳの開発を通して、アイデアや考え抜くための力を育成し、活動の集大成としてTMS2019にて発表を行う予定となっている。

(3) 取組のアピールポイント・特徴・効果

本取組は地域企業 23 社 200 人以上の協力を得て実現することができている。

生徒たちは、多くの企業人と接することでコミュニケーション能力が向上し、社会人としての振る舞いを学ぶことができている。



1 取組名

地域とともに育てる未来の担い手プロジェクト

2 実施団体

団体名：愛媛県立西条農業高等学校

住 所：〒793-0035 愛媛県西条市福武甲 2093 番地

3 取組内容

(1) 概要

市、地元経済団体、事業主団体、農業高校が一体となって、地元産品を使った商品開発・販売、市のイベント参加などの活動を通じて、地域活性化と地域が連携して「農」と「食」のスペシャリストを育成する取組。

(2) 詳細

- ① 環境工学科では、技能検定（造園職種）の課題を活用し、愛媛県造園緑化事業協同組合の協力のもと、技術・技能を習得している。

3年生時には、この技術・技能を活かして十坪の庭園を施工している。設計から生徒たちの手で進め、高校生の自由な発想を実現するために愛媛県造園緑化事業協同組合の協力のもと県内各地の造園業者の指導により、高度な技術・技能を身につけることができている。

庭園内の工種には、本来は石積には向かないとされている地元名産である伊予青石を使用し、近隣の神社から切り出した竹を用いて多様な竹垣の作製、洗い出し舗装や乱張り等、地場産品を使用しながら高度な技術を要するものもやり遂げられ、見応えのある庭園の完成に繋がった。

- ② 食農科学科では、廃棄野菜の有効利用に向けた研究を行っている。トマトを練り込む製麺方法を確立させ、小・中学生に向けた製麺体験学習プログラムとして実施、食品製造の技能を身につけ、平成 28 年、石鎚山サービスエリアとの共同開発で「西条トマトたっぷりラーメン」の商品化を実現した。

以降毎年、地域資源を活かした食品開発研究及び商品化を実施しており、地域や県内外からの好評を得ている。また、サラダ菜「うまいぞ菜」（平成 19 年商品登録）を水耕方式で栽培しており、昨年「えひめ GAP（農産物等の認証制度）」に申請し認可された。その西農高産「うまいぞ菜」を使用した食品開発にも取り組んでいる。

(3) 取組のアピールポイント・特徴・効果

- ① 環境工学科では、愛媛県造園緑化事業協同組合の協力のもと、3年間の長期的なスパンで段階的に造園技術・技能を身に付け、より高い技術と表現力で庭園施工を行うことができている。

県内の造園業の方々とのふれあいを通し、造園業の魅力を学生たちが知ることができている。職業観などの人材育成効果につながり、造園業への就職者も増加している。

施工した庭園の展示では多くの来場者と施工した高校生が生の声やアンケートなどを通じて接することができ、地域の方々の庭園緑化と造園技術・技能への興味を引き上げられている。

- ② 食農科学科による石鎚山サービスエリアとの産学連携活動では、地域資源を活用し、新たな地域ブランド発信のコンテンツとして重要な役割を担っている。地域企業との連携を強化することにより、新たな地域の魅力発見や発信に向けた研究を生徒が主体的に行うことができる。また、研究成果を見える形で実現できる環境があることで、生徒の意欲向上につながっている。



1 取組名

沖縄県産イグサ（ビーグ）を使用した「へり無し畳（琉球畳）」の加工手順法の継承及び後進技能者の育成活動

2 実施団体

団体名：沖縄県畳工業組合

住 所：〒900-0002 沖縄県那覇市曙3-4-13 下地ビル2F

3 取組内容

（1）概要

沖縄県産イグサを使用した琉球畳の加工手順法の指導及び教育を行う伝統技能の継承と後継者育成、小中学校での「ものづくり体験教室」等を通じた畳文化の周知を行う取組。

（2）詳細

沖縄県内の畳工及び将来畳技能者を目指す者に、本土産よりも扱いが難しい沖縄県産イグサを使用したへり無し畳（琉球畳）の加工手順法を継承している。県内の畳工の技術向上を目的として、先人の築き上げた優れた技能を次世代に残すために、より高度な技法を習得するための技能講習会、畳品質管理責任者資格セミナーの開催や、「畳製作」技能検定試験の受検者向け試験対策講習会を実施している。また、沖縄県職業能力開発協会と（一社）沖縄県技能士会連合会と連携し、地域の住民等を対象とした「ものづくり体験イベント」への参加や、県内の小中学校での「ものづくり体験教室」へ参加等を通じて、畳製造業の周知と普及活動を行っている。

（3）取組のアピールポイント・特徴・効果

県内外へ、県産畳表（たたみおもて）を使用した畳製作の技能を伝えることにより、県産畳表の活用に貢献した。

また、平成26年度に開催した「匠の技・技能継承沖縄フェア」において、これまで培った技能を応用し、県産畳表を使用して有識畳（ゆうそくたたみ）の製作実演を行った。これは業界で初めてのことであり、一般には殆ど目にすることのない有識畳を県民に対して披露し、県産畳表の魅力を広くPRした。

また、寸法学の講習会等の実施により本県における畳工の技能向上に、品質管理責任者資格セミナーの開催により県内公共工事の畳表の品質維持管理に、それぞれ貢献した。

